

飛躍へ! 魅力度アップ

初心

2019年新春号

平成31年1月発行
年2回刊
題字/福田富一 書

〈発行所〉

福田富一
暮しと政治研究所
〒320-0026
宇都宮市馬場通り2丁目1番12号
TEL 028 (633) 1111
http://www.tomikazu.com

「選ばれる栃木づくりに向けて」

栃木県知事 福田富一

《亥の年が始まった》

今年(亥)は5月1日、皇太子殿下が第126代天皇になられ、新元号が始まる。先立って今上天皇在位30年の

奉祝行事が、国は2月に、栃木県は3月に開催される。栃木県は御用邸や御料牧場など特に縁が深いこともあり、県民をあげて謹んでお祝申し上げたい。



《東京2020大会》

いよいよオリンピック・パラリンピックも1年後開催となった。今年の夏ころには聖火リレーのコースが決定となり、その後、聖火ランナーの選考が予定される。

キャンピングについても、栃木県はハンガリーのホストタウン(国の登録)として各競技団体と交渉続行中だ。陸上競技以外の競技団体についても順次決定を見たい。

《いちご一会とちぎ国体等》

3年後の国体等についても、施設整備や競技力向上等順調に進んでいる。武道館は今秋に、スタジアムは来春に、体育館・プールは再来春に相次いで完成となる。

スポーツ医科学センターも来春の開業に向け準備中であり、医師・栄養士等の専門家が、科学的データに基づき、その人に合った運動メニュー等指導により、運動能力向上に結びつけることができる。

《アフターDC》

19年ぶりのDCキャンペーンも本年4月か

ら6月までのアフターDCをもって終了する。期間中の入込数2500万人以上、宿泊者220万人以上を目標とする。宿泊者数が昨年未達成となっ

ていることから、本年こそ目標数を上回りたい。そのためには10万人以上更に宿泊者数増に結びつけねばならないが、観光資源に恵まれている栃木県としては、情報発信が昨年以上に効果的であれば不可能ではない。14年ぶりに再開した大阪センター等も含め、栃木の素晴らしさのアピールに力を込めたい。

口コミも含め、皆様方のお力も、おもてなしと併せてお貸し願いたい。

《魅力度ランキング》

昨年の発表は、43位から44位と、アップするどころか順位を下げた。残念な結果になってしまった。

この調査は、全国に1社しかない会社が、2009年から毎年実施している。

調査項目は84項目(そのうちの1つが魅力度)、全国から選ばれた回答者は約3万人、各都道府県の回答者が按分される。今回の栃木県の人数は608人だった。

県は、ブランド力推進本部を2008年から立ち上げ、私共が本部長となり地道に取り組んできた。その結果、魅力度こそはかばかしくないものの、これまでの最低値だった愛着度46位、

自慢度40位だったものが、今回は愛着度16位、自慢度20位まで上昇することができた。兆しは見えてきたようにも思える。

《政治生活35周年を越えて》

初めて宇都宮市議選挙に臨んだ昭和58年も亥の年だった。行政書士会に入会して間もないにもかかわらず、会の先輩方に「猪突猛進で当選に向かって頑張れ!」と激励されたことを思い出している。思えば4度目の亥の年を知事として迎えることができた。

大変な時期を思いおこすと、体力的には、子ども会やPTAの役員をやっていた市議員・県議員時代、経済的には、3人の子どもが大学を卒業し自立するまでが特に大変で、市長時代まで続いた。何せ毎月が収支不足だった。

仕事面では、市長・知事就任間もない1〜2年。初めてのこ

とばかりの連続なので、「習うより慣れる」を実践した。「知事は失敗がないですよね!」は、職員が私にかけてくれた言葉だ。黄泉の国に旅立たれた方々も含め、本当に長い間お世話になつており、改めて皆様にご心から御礼申し上げます。

《むすびに》

「選ばれる栃木」づくりに向けて本年も精一杯努力して参ります。引き続きご支援を宜しくお願い致します。

「オール栃木で推進」

栃木ブランドの魅力発信!



県は11月14日、県農業試験場いちご研究所がイチゴの新品種「栃木i37号」を開発したと発表した。

記者会見で福田知事は、

県がイチゴ新品種「栃木i37号」

「耐病性や食味など、生産者と消費者双方にメリットがある。とちおとめをしのぐもの」ができたという点で価値がある」と強調した。

洋菓子など業務用と一般家庭で消費されるとちおとめと贈答用などの「スカイベリ」といった既存品種に対し、栃木i37号は一般家庭をターゲットに消費拡大を目指す。栃木i37号は2012年から、とちおとめの欠点改善を育種目標に開発し、約1万株の中から7年かけて選抜された。酸味が少なく甘さが際立つのが特徴。とちおとめより1回り大きい。果肉がしっかりしているため長距離輸送に耐えられるため、関西方面への出荷や輸出などにも期待できる。

福田知事は、東京五輪・パラリンピックに向けた文化振興方針「とちぎ版文化プログラム」を紹介し、



「いちご王国」プロモーション推進委員会が11月12日、宇都宮市内で開かれた。「いちご王国」の文字を描いたフラワーマートのお披露目もあり(写真)、関係者は来年1月

いちご王国、全国発信

宇都宮でプロモーション推進委員会

15日から2ヶ月間の集中プロモーション期間へ向け、士気を上げた。同委員会は県産イチゴの発展などを目指し、農業団体など70団体で構成する。会長の福田知事は「(活動2年目の)本年度は県内に加え、新たに首都圏、関西圏など全国へ、いちご王国の魅力を発信していく」と述べた。

「とちぎ創生アイデア会議」地域で先駆的な取り組みをしている人たちと福田知事が意見を交わす

「とちぎ創生アイデア会議」が12月15日、大田原市湯津上支所で開かれ、大田原、那須塩原、那須烏山、那須那珂川の5市町の5人が知事と意見を交換。「県なかがわ水遊園に来た観光客を他施設に誘致したい」などの提案があった。

《とちぎ元氣フォーラム大田原》福田知事が市町に向いて県民と対話する「知事と語ろう!とちぎ元氣フォーラム大田原」が同日、大田原市南金丸の那須与一伝承館で開かれ、市民ら約130人が参加し意見を交わした(写真)。

「大田原は竹芸芸の人間国宝が2人いて、竹芸分野では世界一。国内外の大勢の人に本県や大田原の歴史文化に触れてもらうよう発信するの」が大きな仕事になる」と述べた。



アルタモノフ知事(右端)と再会し、意見を交わす福田知事。16日午後、ロシア・カールガ州

ロシア・カールガ州を訪問

今年6月にカールガ州のアナトリー・アルタモノフ知事が来県し、栃木県との地域間交流を進めることを希望し、福田知事に訪口を要請していたことを受け、福田知事は10月14日、県議や県内の企業、大学関係者らとともにロシアを訪問。首都モスクワを経て16日、同州政府を訪れ、アルタモノフ知事と会談した。会談では経済や教育、観光分野でのどのような交流ができるかなどについて意見交換した。会談後には同州政府関係者らとの夕食会に参加し、交流を深めた。同州北部のボロフスク地区の工業団地も視察。三菱自動車などが設立した合弁会社では、生産活動状況や進出理由について説明を受けた後、行政支援の在り方などについて意見交換し、19日に帰国した。

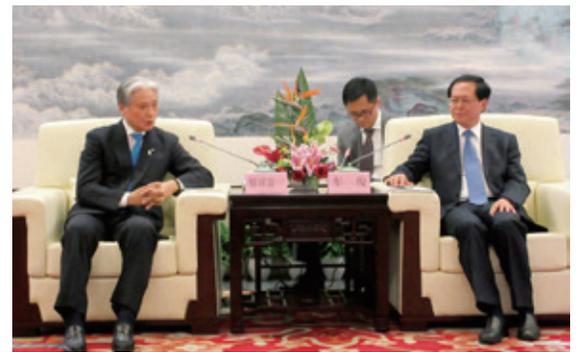
福田知事 中国浙江省と香港を訪問

福田知事は12月18日(22日までの5日間の日程で)中国浙江省と香港を訪問した。同省との友好提携協定25周年を記念した式典に出席したほか、今年7月に本県野菜などの輸入規制が緩和された香港では農産物輸出や観光誘客などを自ら売り込んだ。福田知事は、県議や県内の企業、農業・観光関係者ら約70人とともに18日午後、中国浙江省に到着。空港内の貴賓ホールで車俊(しやしゅん)中国共産党浙江省委員会書記らと会談し、今後一層関係を深めていくことを確認。その後、栃木浙江友好会館「杜鵑楼(とけんろう)」に移動し、袁家軍(えんかぐん)省長と会談。袁氏は「経済、文化、教育の途に就いた。22日は青果物市場を視察し、帰国

育、観光分野で交流を続けたい」と述べ、福田知事は「各分野での交流を深めていければ」と話した。

19日は本県にゆかりのある同省関係者らで組織する「栃木友人会」の開催や、企業視察などを行った。訪問団のうち、福田知事や関係者ら約30人が20日に香港に移動して香港栃木県人会と夕食。

21日は在香港日本国総領事館やジェトロ香港事務所などを訪ねた後、現地の食品関係事業者や観光関係者ら約40人を招いたレセプションを主催。福田知事が農産物や観光のトップセールスを行った。



車中国共産党浙江省委員会書記(右)と会談する福田知事

このページは、下野新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞、の記事を抜粋させていたいただきました。

外来生物対策を要望

関東地方知事会

本県を含む10都県で構成する関東地方知事会は10月31日、埼玉県川越市で定例会議を開き、国への施策や予算に関する提案・要望11項目などを決めた。

本県の福田知事は、特定外来生物対策の支援を求め、了承された。福田知事はヒアリやセアカゴケグモ、クビアカツヤカミキリなどの特定外来生物の侵入について「生物多様性、農林水産業、人の健康への影響は大きい。急速に生息域が拡大しており、県域を越えた防除対策が求められ」などと指摘。その上で、国が主体となって研究・開発を進める有効



関東地方知事会議に臨む福田知事(中央)

「防災省」提言を採択

全国知事会議

全国知事会議が7月26日から札幌市で2日間の日程で開かれ、南海トラフ巨大地震や首都直下地震をはじめとした巨大災害への備えが必要だとして、事前対策から復旧復興までを一元的に担う「防災省」創設を求め、緊急提言を採択した。

緊急提言は「巨大災害で甚大な被害が及べば地域が消滅しかねない」と危機感を強調。福田知事は「西日本豪雨では犠牲者の7割が高齢者だというが、身体が不自由ならば避難をためらう。最終的に現場で力を発揮する消防団員の人員確保や充実を国に訴えるべきだ」と発言した。



9月29日、土砂降りの中、福井国体総合開会式会場で氣勢を上げる福田知事(前列左から4人目)と本県選手団。福井県宮内陸上競技場

東奔西走の日々

- ◇7月5日 都内で東京栃木県人会「DCの成果を継続させるよう取り組んでいくので応援を」と知事。
- ◇7月15日〜23日 アルゼンチンとブラジルを訪問／在伯栃木県人会創立60周年記念式典に出席。
- ◇7月30日 大阪市内で関西栃木県人会「これまで以上のお力添えをお願いしたい」と協力を呼び掛ける。
- ◇8月6日 那須烏山市でブロッコリー市長村長会議／地域の当面の課題や取り組みなどについて意見を交わす。
- ◇8月25日 とちぎ元気フォーラムin足利／運転免許の自主返納など意見交換。
- ◇8月29日 中国浙江省袁家軍省長来県／交流深化へ知事と会談。
- ◇9月3日 都内でJTB「日本の旬北関東キックオフミーティング」／「多くの方に3県を周遊してもらい宿泊地に栃木を選んでほしい」と。
- ◇9月29日 福井しあわせ元気国体現地激励会／「最高のパフォーマンスを発揮し、悔いのない戦いをしてほしい」とエールを送る(上記写真)。
- ◇10月5日 韓国大田広域都市西区のチャン・ジョンテ区庁長等栃木県訪問団が「交流深めたい」と知事を表敬。
- ◇10月9日 都内で「栃木県産銘柄牛」懇談会／「とちぎ和牛を一緒に盛り上げてほしい」と呼び掛ける。
- ◇11月1日 とちぎ企業立地・魅力発信セミナーin大阪／45社に立地環境紹介「リスク分散の拠点設置にも」。
- ◇11月22日 ハンガリー近代五種協会関係者が知事を表敬／「ぜひ事前キヤンプ地に選んでほしい」と知事。
- ◇11月26日 指定廃棄物関係市町長会議／環境省の中間集約案6市町同意。
- ◇12月8日 とちぎ元気フォーラムin市貝／「高齢者が地域で『支える側』として活躍してほしい」と知事。
- ◇12月23日 皇居宮殿で開かれた天皇誕生日祝賀・宴会の儀に出席。

西日本へ「栃木」発信

大阪センター開所

県の西日本への情報発信拠点となる「栃木県大阪センター」(井上彰センター長)の開所式が7月30日、大阪市北区堂山町で行われ、在阪出先機関として正式に発足した。西日本で特に低いとされる本県の知名度アップや観光誘客、企業誘致、県産品の販路拡大などに取り組む。

同センターはJR大阪駅から徒歩10分程度の日本生命梅田ビル2階に設けられた。県の在阪出先機関は2004年に閉鎖した県大阪事務所以来14年ぶりの復活となる。

開所式で福田知事は「とちぎのいいもの」を売り込む体制が整った。「ほな、行こか」と栃木からやって来ました。センターを拠点に、関西圏における栃木県の知名度向上につなげていきたい」とあいさつした。



開所式で県産木材と益子焼の陶板で作った看板をお披露目する福田知事(右)と井上センター長

世界柔道60キロ級で「金」

高藤選手に知事特別表彰

福田知事は10月30日、9月にアゼルバイジャン・バクーで開催された柔道の世界選手権男子60キロ級で2年連続3度目の優勝を果たした下野市出身の高藤直寿選手(25)にパーク24に知事特別表彰(県スポーツ功労賞)を授与した(写真)。高藤選手の受賞は昨年に続き4度目。

福田知事は2013年の世界選手権優勝で初めて表彰した時を振り返り、「心身ともに成長したと感じた。次の大会を目指して頑張ってください」と激励。「東京五輪まで無敗のまま金メダルを取りたい」と高藤選手。



『政治生活35周年を祝う会』開催

福田富一知事の政治生活35周年を祝う会が12月9日、宇都宮グランドホテルで開かれ、本県関係国会議員や自治体首長、県議、市議、町議ら政界関係者や業界団体などの支援者ら約1500人が参加した。

福田知事は1983年4月に29歳で宇都宮市議会議員に初当選。その後、栃木県議会議員、宇都宮市長を努め、2004年12月に栃木県知事に就任した。この日は知事4期目の任期折り返しの初日となった。

福田知事はあいさつで、35年間支えて下さった多くの皆様に感謝の気持ち述べたあと、「『満塁ホームランを打て』と叱咤激励もい

ただ、なかなか打てるものではない」と笑いを誘い、「内野安打で得点を重ね、課題を解決できるような精いっぱい取り組んでいくことを約束する」と改めて決意を語った。



加藤登紀子さんを招いて文化講演会

毎年恒例の文化講演会は9月18日、宇都宮グランドホテルを会場に、「福田とみかず政治生活35周年特別企画『加藤登紀子トーク&ライブ』」と銘打って開催された。開始1時間前には激しい雨が降っており、足元の悪い中、700余名の皆様にご来場いただいた。

赤いドレスに黒いストールをまとった加藤登紀子さんがステージに現れると大歓声が湧き起こった。1曲目は大ヒット曲『百万本のバラ』、曲の合間にはステージを下りて、会場の皆さんと握手をしながら、ご自身のことを飾らずに本音で話して下さいました。

生い立ちやご主人との出会い・結婚、千葉県鴨川での

農業生活、アンチエイジングの取り組み、3年前の足利・饒阿寺でのコンサートで福田知事と出会ったこと等々。『ひとり寝の子守唄』、2011年の震災から1週間後に作った歌『今どこにいますか』、『わが人生に悔いなし』、相田みつおさんの『人間だもの』、『愛の讃歌』、『終わりのなき旅』、『いちごの歌』などを熱唱して下さい、加藤登紀子さんの温かいお人柄と相まって素晴らしい講演会となった。



必要だとしてあくまでも25位を目指して取り組んでいくこと。知事4期目折り返しの12月9日、政治生活35周年の節目の会を行うことなどを報告。これからも全力で取り組んでいくので変わらぬご支援をお願いして会を閉じた。

知事と語る会 知事と語る会

第11回「知事と語る会」が11月13日、宇都宮グランドホテルで開かれ、150人が参加した。

福田知事は初めに、今年6月にロシア・カールガ州知事が来県し、県との地域間交流を希望して福田知事に訪口を要請していたことを受け、10月14日に同州政府を訪れ、アルタモノフ知事と会談したことなどを報告。

DCキャンペーンで全県で盛り上がったにもかかわらず、ブランド力が44位になったことについては、ブランド力は

もちつき大会

12月2日(日)、第36回『もちつき大会』が今宮公園で開催された。今年はおもち米を蒸かす特製のかまども用意

『福田家の茶の間』

元且は夫と共に皇居・正殿松の間での「新年祝賀の儀」に参列した(写真)。昨年は12月23日の天皇誕生日にもご招待頂き参列した。平成最後ということもあり、特に感慨深かった。

昨年はお忙しいところ夫の「政治生活35周年を祝う会」にお出で頂き誠にありがとうございました。お陰さまで盛大に開催出来ましたこと、心から感謝申し上げます。

昨年は「祝う会」の準備もあり特に忙しかった。お互いに余裕がなくイライラすることが多かった。そんな中での夫からの「ありがとう」という感謝の言葉は嬉しかった。今年の目標は、「気は長く、



心は丸く、腹立てず」(娘がトイレに貼った標語だが)、いつも穏やかな気持ちでいようと思っている。

マー君(黒パグ・生後7か月)が我が家に来てから4か月、トイレもできるようになったり、言葉も良く理解するようになった。やんちゃぶりは相変わらずだが、無邪気な元気がかえって私たちを癒してくれ、今や大切な家族の一員である。

二男の陽も政治の道を志し、日々奮闘している。感謝の気持ちを忘れず、人の痛みが分かる政治家になってほしいと願っている。

夫に続いて息子で大変恐縮ですが、お力添え頂きますよう宜しくお願い申し上げます。寒い日が続いております。くれぐれもご自愛ください。

編集後記

昨年は12月政治生活35周年を祝う会があり、慌ただしく忙しい毎日だったが、皆様のご協力のおかげで成功裏に終わり、スタッフ一同ホッとしている。

新聞スクラップを読み返してみると、昨年の知事は例年にも増して多忙な日々を送ったことが記事の多さからも見て取れる。半年間の出来事を分り易くまとめました。どうぞ一読下さい。



◆福田富一後援会総連合会事務所
 ◆福田富一暮らしと政治研究所
 宇都宮市馬場通り2-1-12
 電話 028(6333)1111
 FAX 028(6333)1110